



# 1 ねらい

雪舟の業績や作品について調べることを通して、雪舟によって日本風的水墨画が確立され、今に伝わる文化となっていることを考える。

# 2 授業の流れ

## 1 導入・視聴前のポイント (5分)

- ・「足利義満・義政」の回のドキリ・ポイントを確認し、室町の文化として水墨画が盛んになったことを確認する。
- ・「天橋立図」を提示し、この作品が雪舟の代表作の一つであることを知る。
- ★水墨画についての第一印象について何人かの児童に聞き、水墨画がどのようなものであるかについて、関心を高めるようにする。

## 2 学習課題の提示

「雪舟が描いた水墨画とはどのようなものだろう。」

## 3 番組視聴 ワークシート1 (10分)

- ・雪舟の人物像、作品、水墨画の特徴(描き方)などに注目して番組を視聴し、分かったことをワークシートにメモする。
- ★このメモが後で水墨画を鑑賞するときのヒント(視点)になることを押さえておく。

## 4 情報活用 ワークシート2 (20分)

- ・「雪舟・世阿弥ドキリ・ポイント①」を確認する。
- ★雪舟は日本の風景や四季を描き、独自の世界を確立した。
- ・「天橋立図」を鑑賞し、気付いたことや思ったことなどをワークシートにメモする。
- ★できるだけ原寸に近い大きさの複製を鑑賞することが望ましい。
- ★この作品が国宝であること、絵のようにみえる場所が実際には存在しない(つまり見たままを描いたものではない)こと、実は下書きである(完成画の所在は不明)であることを適宜知らせる。

## 5 まとめ (10分)

- ・天橋立図を鑑賞した感想を交流する。
- ・絵画や芸能などを鑑賞するときのポイントを押さえる。
- ★番組中に紹介された「世阿弥と能」についても、今回と同じような方法で調べることができることを確認し、文化について学習する際は、できるだけ実物を鑑賞したり、実際に体験したりすることが有効であることを知らせる。

# 3 評価のポイント

- ・雪舟の描いた作品が、日本の独自の水墨画であることについて、作品の鑑賞を基にして具体的に表現している。(思考・判断・表現…主にワークシート2、発言)

## ワークシート例



せつ しゅう ぜ あ み  
雪舟・世阿弥 ~日本独自の文化の誕生~

くみ なまえ

### 学習課題

雪舟が描いた水墨画とはどのようなものだろう。

1 水墨画、雪舟や雪舟の作品についてわかったことをメモしよう。

#### 水墨画について

- ・墨の濃淡だけを使って描く。
- ・本場は中国。
- ・武士は水墨画を好み、生活の中に取り入れた。

#### 雪舟について

- ・小さな頃から絵を描くことが好きで、絵の才能があった。
- ・京都の寺に入って絵の勉強を始める。
- ・遣明船で中国に渡り、中国の雄大な景色を熱心に描いた。
- ・雪舟の絵の腕は本場中国でも認められるようになった。
- ・各地を巡り、生涯にわたり日本の風景を描き続ける。
- ・日本独自の水墨画を確立した。
- ・国宝になっている作品が6つある。

#### 作品について

- ・帰国した雪舟は長さ16メートルにも及ぶ大作、四季山水図巻を描く。
- ・日本の雄大な景色や四季の変化を描いた作品は日本の画家たちの手本となる。

2 天橋立図を鑑賞して気付いたことや思ったことをメモしよう。

- ・とても大きな絵で、細かいところまで描いている。
- ・白黒の濃淡だけで、こんなにリアルに描けるなんてすごい。
- ・これが下書きだなんて信じられない。完成品を見たい。
- ・水墨画の本場は中国だけど、帰国した後に各地を巡ったのは、日本の風景や四季のすばらしさも伝えなかったのではないかな。
- ・リアルだけど、どうして実際には見えない風景を描いたのだろう。
- ・目に見えたものが全て美しかったから、それを絵の中にすべていれようとしたのかもしれない。
- ・多くの画家が雪舟を手本にしたのは、雪舟の絵が日本のすばらしさを伝えている物だったからだと思う。

